忘れることのないできごと

津和野町立津和野中学校　二年　　益成結菜

「人間不信になった。」

急に友達から来たメッセージの言葉に私はびっくりしました。心配して話を聞いてみると、仲の良い友達に「首を絞められた」などうわさを立てられ、大切な人のことを話したら「その人たちもそのうちあんたのこと嫌いになるよ」などと言われたそうです。こんな風に日常生活の中で「言葉の暴力」を受けていました。先輩には陰口を言われ、両親にも「産んだ価値ない」など身近にいる人にも言われ、学校や、家庭環境に悩んでいました。

この話を聞いて、昔の自分のことを思い出しました。私が小学校高学年のころ、前まで仲の良かった友達に無視されたり、下校するたびに私を見つけると走ってにげたりするなどの嫌がらせを受けました。当時相談にのってくれた人でさえ、陰口を言っていました。当時の私は、誰を信じていいのかわかりませんでした。いつしか「私はどこにも居場所なんてない」と思うようになっていました。

当時のことを思い出すと、私の友達が重なり友達も同じように思っているのではないかと胸がしめつけられるようでした。しかも今なおいじめを受け、自分の言いたいことも言えない状況です。友達は、他校の生徒なので直接助けることができません。電話やメールを通じて友達の相談相手になることはできると思います。

世界には「言葉の暴力」によって傷つき、自ら命を絶ってしまう人が数えきれないほどいます。また、人間を外見の見た目や、民族・国籍によって、嫌がらせをする差別もあります。その他、保護者であるはずの親が子どもに対して殴ったり、ネグレクトしたりするなどの虐待や、ネット上でのひぼう中傷などが起こっています。言葉の暴力や、虐待、いじめなどの差別は、人格を否定し、名誉を傷つける行為です。これらによってなぜ、何の罪もない人が自ら命を絶たなければならないのでしょう。たった一言で命に関わったり、その後の人生にずっと刻まれる傷になったりすることもあります。言葉はどれだけ人を傷つけるか、どれだけの人を犠牲にするかわかりません。一人一人が、自分の言葉や行動に責任を持つべきだと改めて思いました。

今、私は「こんなことがあったんよね。」と笑って気軽に話せるようになりましたが、当時は口に出せることではなく、必死に耐えていたのです。そして、その傷はなかなか治りませんでした。「自分とは違うから」、「みんなとちがうから」、「嫌いだから」というのは、いじめをしていい理由にはなりません。人には生まれ持った才能、顔、体の特徴、個性があります。だから自分と違うということは当たり前です。

いじめを防ぐためには、だれもが「違う」ことを前提に考えることが必要だと思います。相手の気持ちや立場を理解しようとすることも必要です。自分自身では気をつけているつもりで、悪気がなくても、相手からするとすごく傷ついてしまうことがあります。自分が言った発言が相手を傷つけ、自殺に追い込んでしまうかもしれません。

今も増えるいじめ。いじめがある分、苦しんでいる人がいるということです。もし身近にいじめられている人がいるならば、私はできる限りその人の力になりたいです。「自分に居場所がない」と思っている人には、私が居場所を作れるようにしたいと強く思っています。

この世に生まれたたった一つの命を、無駄にはしたくありません。私が今生きることができているのは、とある友人のおかげです。誰にも相談できなかった私の話を真剣に聞いてくれました。そこでやっと私は「居場所」を得ることができたように思います。今考えても、感謝しかありません。

私がつらい経験を経て、居場所を得て今があると思うと、私は私にできることを少しでも行動に移していきたいと思っています。私の行動や、かける言葉で少しでも救われる人がいればいいなと思います。つらい思いをしている人が少しでも安らげることができたら、いじめられている人が「居場所がある」と気持ちが救われるなら、私は行動する意味があると思います。

これからの人生で自分なりにいじめが起こらないように、いじめがあれば救われた気持ちになるような言葉をかけたり、相談に乗ったりしていきます。